

(2) 筋ジストロフィーと多糖代謝

徳島大学医学部内科学第三講座

螺良英郎 橋本卓樹 香川和夫

進行性筋ジストロフィー症 (DMP) は筋線維自体の変化を主体とするが、疾患が進行するに従って、間質結合組織の増加および代謝異常が考えられる。この間質結合組織の一大主要成分としてムコ多糖があり、この代謝に関与する水解酵素 (Glycosidase) の一つとしてN-アセチル-β-グルコサミナーゼ (NAG) がある。これまでに Duchenne 型CMP 患者22例 (機能障害程度4度3例、5度2例、6度5例、7度8例、8度4例) の血清NAG値を測定した。健常者の血清NAG値は $8.5 \pm 0.4 \text{ mg/dl}$ であり、DMP患者では $11.8 \pm 2.6 \text{ mg/dl}$ と軽度の上昇傾向がみられた。Stage 別にみると、6度、7度で $12 \sim 16 \text{ mg/dl}$ と高値を示し、炎症性疾患ほど顕著ではないが、Stage の進行につれて上昇傾向がみられた。今回、DMP患者より Stage 毎に各2例づつを選び血清NAGのアイソザイムパターンを比較検討した。すなわち、Orstein & Davis法に準じたディスク電気泳動を行なった。ポリアクリルアミドを支持体とし、 4°C で4時間通電後、ナフトールAS-BIN-アセチル-β-グルコサミニドと反応させ、Fast Red Violet LB塩で染色した。健常人血清のNAG電気泳動パターンは陽極側に移動する2本のバンドA, Bがみられた。DMP患者血清では健常人と同様、A, B2本のバンドがみられたが、stage 6, 7度のDMP血清の泳動パターンでAバンドにやや増巾の傾向がみられ、Stage の進行との間に関連性が示唆された。ちなみに妊娠血清ではAとBとの間にやや巾広いPバンドがみられ、肝癌ではAに相当するバンドが広く、慢性炎症でもやや巾広いAバンドが認められた。

(3) Adenyl cyclase のラット正常筋および変性筋における組織化学的变化

徳島大学医学部

檜沢一夫 須美登志子

Adenyl cyclase は細胞膜やその他の膜系に局在し、ATPを基質とするcyclic AMPはホルモン作用の発現その他の重要な代謝に関与している。

ところで筋ジストロフィー症における重要な変化の1つとして細胞膜の異常が論議されている。生化学的測定によると、筋ジストロフィー症骨格筋のAdenyl cyclase 活性は、賦活剤を加えない

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

進行性筋ジストロフィー症(DMP)は筋線維自体の変化を主体とするが、疾患が進行するに従って、間質結合組織の増加および代謝異常が考えられる。この間質結合組織の一大主要成分としてムコ多糖があり、この代謝に關与する水解酵素(Glycosidase)の一つとして N アセチル - - グルコサミニダーゼ(NAG)がある。これまでに Duchenne 型 CMP 患者 22 例(機能障害程度 4 度 3 例、5 度 2 例、6 度 5 例、7 度 8 例、8 度 4 例)の血清 NAG 値を測定した。健常者の血清 NAG 値は $8.5 \pm 0.4 \text{mg/dl}$ であり、DMP 患者では、 $11.8 \pm 2.6 \text{mg/dt}$ と軽度の上昇傾向がみられた。